



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月1日

上場取引所 東

上場会社名 住友ベークライト株式会社
コード番号 4203 URL <http://www.sumibe.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 茂
問合せ先責任者 (役職名) 経理企画本部経理部長 (氏名) 山口 晋

TEL 03-5462-4111

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	45,112	△0.7	1,912	△4.7	2,468	11.5	1,558	85.2
25年3月期第1四半期	45,435	△2.5	2,006	△21.1	2,214	△32.6	841	△56.9

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 7,684百万円 (152.2%) 25年3月期第1四半期 3,046百万円 (△12.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	6.47	—
25年3月期第1四半期	3.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	221,461	137,788	61.6
25年3月期	213,826	131,311	60.8

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 136,404百万円 25年3月期 130,044百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	97,000	5.3	5,000	9.8	5,500	12.3	2,800	41.3	11.62
通期	210,000	14.5	12,000	50.8	12,600	47.3	6,400	85.9	26.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期1Q	262,952,394 株	25年3月期	262,952,394 株
26年3月期1Q	22,045,246 株	25年3月期	22,042,713 株
26年3月期1Q	240,908,587 株	25年3月期1Q	240,917,931 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、米国は緩やかな回復基調にありましたが、欧州は財政金融問題の影響により依然として低迷し、中国などの新興国でも拡大のテンポが鈍化するなど厳しい状況が続きました。日本経済も新政権下の各種経済政策への期待の高まりから、円安や株価上昇など景気の持ち直しの動きが出てきたものの、緩やかな回復の兆しが見える程度にとどまりました。

当社グループを取り巻く経営環境は、半導体においては、スマートフォンやタブレット型多機能携帯端末は、新興国で低価格帯を中心に販売が伸びているものの、薄型テレビなどのデジタル家電やパソコンの低迷が続き、全体としては低調に推移しました。自動車につきましては、国内の販売はエコカー補助金終了に伴う反動減が見られ、欧州も低調でしたが、北米は堅調で、中国も回復基調で推移しました。国内の住宅着工件数は、消費税増税前の駆け込み需要や復興需要などにより緩やかに増加しました。

当社グループはこのような経営環境の中、身の丈経営によりスリム化した企業体質を維持しながら、次の方針を掲げて新たな成長に向け総合力を結集して取り組んでおります。

- ①国内既存事業の再生、ビジネスモデルの転換
- ②新規事業立ち上げ、創生
- ③海外事業の収益力強化、規模拡大

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は451億12百万円となり、前年同期比ではフレキシブル・プリント回路事業からの撤退の影響などにより、0.7%、3億23百万円の減収となりましたが、直前四半期（実質ベース）と比較すると、半導体関連材料や高機能プラスチックの売上増加などにより、5.7%、24億45百万円の増収となりました。

損益につきましては、連結営業利益は、原料価格高騰の製品売価への転嫁の遅れなどにより、前年同期比4.7%、94百万円減の19億12百万円となりましたが、直前四半期（実質ベース）比では全報告セグメントで改善し、80.9%、8億55百万円の増益となりました。また、円安による為替差益の計上や特別損失の減少などにより、連結経常利益は前年同期比で11.5%増の24億68百万円、連結純利益は前年同期比で85.2%増の15億58百万円となりました。

セグメント別販売状況（対前年同期比較）

①半導体関連材料

半導体封止用エポキシ樹脂成形材料は、半導体関連市況は厳しい状況ではありましたが、成長市場での拡販などに加え、円安による為替換算影響もあり、売上高は増加しました。

半導体基板材料「LαZ®」は、顧客での生産調整や新規立上げ遅れなどにより伸び悩みましたが、今後期待される新たな需要拡大への対応とともにコスト競争力を強化すべく、宇都宮工場内に第二の生産拠点を設置し、量産化に向けて準備を進めています。

なお、半導体実装用キャリアテープは、ビニル樹脂シートおよび複合シート等のフィルムシートと事業を一体運営することに変更したため、当期より「クオリティオブライフ関連製品」セグメントに編入することとしました。

②高機能プラスチック

フェノール樹脂成形材料、工業用フェノール樹脂および成形品は、自動車分野が堅調に推移したことに加え、円安による為替換算影響もあり、売上高は増加しました。

エポキシ樹脂銅張積層板およびフェノール樹脂銅張積層板は、自動車分野は堅調に推移しましたが、薄型テレビ等のAV機器市場の低迷により売上高は減少しました。

なお、「回路製品」セグメントは、フレキシブル・プリント回路事業の撤退によりセグメント売上高が減少し、また、残る積層板事業も車載主体への事業転換を進めているため、当期より「回路製品」セグメントを廃止し、「高機能プラスチック」セグメントに統合することとしました。

③クオリティオブライフ関連製品

医療機器製品は、皮下埋設型中心静脈ポート「オルフィス CV キット®」などの新製品の寄与がりましたが、一部顧客での在庫調整などにより売上高は減少しました。また、顧客密着の営業体制の強化のため、国内で15ヶ所目となる営業事務所を盛岡に新設しました。

なお、バイオ関連製品においては、新製品のヒト幹細胞糖鎖精製ラベル化キット「BlotGlyco®」を上市しました。

ビニル樹脂シートおよび複合シートは、医薬品包装用途がジェネリックメーカーや新薬用途を中心に堅調に推移しましたので、工業用途はスマートフォン等多機能携帯端末の需要減速に伴う、一部顧客での在庫調整などにより低迷したものの、売上高は前年同期比でわずかながら増加しました。

ポリカーボネート樹脂板、塩化ビニル樹脂板のプレート事業は、建材関連製品は好調を維持したものの、異常気象の影響による修繕用途での需要が旺盛であった前年同期には及ばず、売上高は減少しました。

メラミン樹脂化粧板・不燃板のデコラ事業は、戦略製品である不燃の薄物メラミン化粧シート「デコライノベア」が実績化し始めており、さらなる拡販のため積極的なマーケティングを展開しています。

防水関連事業は、消費税増税前の駆け込み需要や復興需要などにより新築住宅、リフォームが高水準で推移し、前年同期並みの売上高となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債および純資産の状況)

①資産の部

総資産は、前連結会計年度末に比べ76億35百万円増加し、2,214億61百万円となりました。

これは主に、現金及び預金が19億73百万円減少した一方で、有形固定資産が42億7百万円、受取手形及び売掛金が26億73百万円、投資有価証券が10億79百万円増加したことによるものであります。

②負債の部

負債合計は、前連結会計年度末に比べ11億57百万円増加し、836億72百万円となりました。

これは主に、賞与引当金が14億59百万円減少した一方で、コマーシャル・ペーパーを40億円増額したことによるものであります。

③純資産の部

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ64億77百万円増加し、1,377億88百万円となりました。

これは主に、配当金の支払12億4百万円があった一方で、為替換算調整勘定が54億30百万円増加したことおよび四半期純利益を15億58百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月10日に公表いたしました業績予想の見直しは現時点では行っておりません。

